

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・工業技術基礎	単位数	2	担当者	高木・秋山・保科・山下
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	-------------

1、教科書・副教材

工業技術基礎（実教出版）

2、科目の目標

・木材加工に関する基礎的な技術を体験させる。 ・ものづくりをとおして、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 ・刃物の原理を理解させ、機械や道具を適切に活用させる。（安全教育の徹底）

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①安全教育	①作業の安全	35	
		②刃物の調整	②刃物の原理と研磨の理論		
	5月	①刃物の調整	①バとカへの研磨		
		②小物作品の製作	②小物木工作品の製作		
		・設計図面について	・機械や道具の適切な活用方法（安全教育）		
	6月	①小物作品の製作	①木取り寸法⇒部材加工		
		・部材の木取り	・設計図面の理解と木工機械の操作実習		
	7月	①小物作品の製作	①部材を仕上げ寸法に加工		
後期		・部材の加工	・ほぞ、溝、組み手など	35	
	8月	①小物作品の製作	①各部材の組み立て		
		・部材の組み立て			
	9月	①小物作品の製作	①作品の仕上げ加工		
		・作品の仕上げ	・カへの調整、ペーパーによる研磨、塗装		
		①小物作品の製作	①完成した作品を展示発表		
		②2年次のコース選択	②2年次コース選択（P：プロジェクト、D：デザイン）		
		機械工具の使用と安全	・コース別に作品を製作		
後期	10月	① 物作品の製作	①コース別に実習	35	
		P：小箱の製作	設計図面に従い、部材の木取り		
		D：文箱、ティッシュ箱、照明の製作	①コース別に実習		
	11月	① 物作品の製作	P：設計図面に従い、組み立てと仕上げ		
		P：小箱の製作	D：図柄をデザインをさせ、製作		
		D：文箱、ティッシュ箱、照明の製作	①コース別に実習		
	12月		P：仕上げの加工と素地の研磨		
	1月	①物作品の製作	D：素地研磨、仕上げ塗装		
後期		P：小箱の製作	①コース別に実習	35	
		D：文箱、ティッシュ箱、照明の製作	P：木を素材とした次年度作品決定と図面制作		
	2月	①次年度作品の設計	D：素材による描き分け（質感表現）の練習		
		P：デザインの決定と図面の製作			
後期	3月	D：素材別デザイン		35	

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・機械や道具を適切に活用することができ、実習の内容を理解して作品に表現することができたか	レポート
思考・判断・表現	・機械や道具の基礎的な活用ができたか	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	出席日数・実習態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

機械や道具の使用法を理解して、安全に作業をする。個性のある作品を作る。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・製図	単位数	2	担当者	横沢・秋山
---	----	-------	-------	-----	---	-----	-------

1、教科書・副教材

インテリア製図（実教出版）

2、科目の目標

- ・日本産業規格に基づいた製図の基礎や図学について理解させる。
- ・製作図や設計図を正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。
- ・レタリングやトレースに関する知識と実践的な技術を習得させる。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①製図用具の使い方	①製図用具の正しい使い方を理解させる。	35	
	5月	②線の練習	②線の基本的な書き方や種類を理解させる。		
	6月	③第三角法投影図の理解	③第三角法投影図の理論を理解させる。		
	7月	④第三角法投影図の理解 ⑤平面図法と等角図法	④第三角法投影図を使いイスの3面図を理解させる。 ⑤図法を理解させ、図面に着色をさせる。		
	8月	⑥トレース	⑥課題図を早く正確にトレースさせる。		
	9月	トレース	課題図を早く正確にトレースさせる		
後期	10月	①日本産業規格の理解	①製図に関する日本産業規格について理解させる。 ※文部科学省後援トレース技能検定実施	35	
	11月	※検定実施（10月） ②家具の基礎製図	②実在する小箱の寸法を測定し、第三角法投影図と等角投影図を用いて、小箱の設計製図を完成させる。		
	12月	③図面の着色	③完成した図面に着色させる。		
	1月	④建築装飾のデザイン	④建築図面に関する植栽の様式や形を着色させる。		
	2月	⑤平面表示記号	⑤平面図に使われる表示記号を書かせる。		
	3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・製図における文字、図面、線の意味を理解し、デザインの感覚により、適切に表現することができたか	課題提出
思考・判断・表現	・製図用具を適切に活用することができたか	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	実習態度・出席日数

5、学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・インテリア計画	単位数	2	担当者	山下
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

インテリア計画（実教出版株式会社）

2、科目の目標

- ・インテリア計画に関する基礎的な知識と考え方を習得。
- ・生活全般と関連性を持たせることで、実際に活用する能力と態度を育てる。
- ・インテリア用語、人体寸法、必要動作スペース、各寸法などについて理解。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①インテリア計画の概要 ②インテリアと人間工学	①インテリアの概念を理解させる ②人体寸法・姿勢と動作・作業域から	35	インテリア計画の概要 インテリアと人間工学
	5月	③インテリアへの応用 ④インテリアの安全 ※定期考查実施	③人間工学の必要性を理解させる ・家具の分類と機能寸法の考え方を理解させる ④日常災害を知り、防止策を理解する ※学習内容の定着度を確認		各種空間の設計 人間の感覚知覚と造形
	6月	①寸法計画と規模計画 ②空間の計画	①規模決定・空間の計画設計方法を理解する ②③モジュール・コデ・イネーション、グリッドプランニングについて理解する		
	7月	③人体寸法と設計 ④配置と動線	④住宅空間の構成と動線について理解する ※学習内容の定着度を確認		
	8月	①インテリアエレメント ②インテリアの造形と心理 人間の感覚知覚と造形 ③色彩 ※定期考查実施	①各時代の住まいの特徴と代表的な建具・家具等の特徴を理解する ②人間の感覚（五感）・知覚の特性を理解する 造形要素の知覚と心理的効果を理解する ③色彩の概念と、表記方法を理解する マンセル・オストワルド・PCCS 表示系を理解する ※学習内容の定着度を確認		
	9月				
後期	10月	④形態 ⑤テクスチャー	④形態の概念、分類、装飾の役割を理解する ⑤テクスチャーの意味と意義を理解する	35	色彩とテクスチャー
	11月	※定期考查実施	・伝統的、インテリアの部位、空間部位の各テクスチャーと、そのあり方を理解する ※学習内容の定着度を確認		インテリアの環境
	12月	①インテリアの環境 ・屋外環境 ・屋外環境	・室外環境 ・日本の日照日射、気温と湿度、気候と風土を理解する		
	1月	※定期考查実施	・日陰曲線図を理解する		
	2月		・屋内環境 ・室内環境基準、湿り空気線図を理解する ※学習内容の定着度を確認		
	3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・生活の中でのインテリア計画の必要性が、これまでの知識を踏まえ理解することができ、各単元について理解し、活用することができたか。	定期考查
思考・判断・表現	・扱ったインテリア計画について理解することができたか	課題提出
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加し課題・授業に積極的に取り組むことができたか	出席日数・授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

家具や内装などのインテリア、建築物などの基礎を学び自身の生活と繋げて行けるようにしていく。
また、各単元の終了後、課題を出し知識を深めていく。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・インテリアエレメント生産	単位数	1	担当者	古畑
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

インテリアエレメント生産（海文堂出版）

2、科目の目標

- ・木材の基本的な性質について理解
- ・木材の活用方法や、家具の分類および構造について理解
- ・木材加工に関する基礎や切削の原理、木材の接着や塗装について理解
- ・安全教育

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	・作業と安全	以下の項目を理解する	18	作業と安全 木材の構造と性質 木質材料
		・木材と加工	・作業と安全		
	5月	※学習内容の定着度を確認	・木材加工の基礎・切削の原理		
	6月	・木材と加工	・木材の性質と構造（木材の構成、成長と年輪、 辺材心材、一般的性質）		作業と安全 切削の原理 手工具とその構造 木材の加工法
		・材の加工と組立	・木質材料		
	7月	・木材の表面処理	・木質材料		
	8月	・加工のための測定	・手工具と加工		
後期	9月	※定期考查実施	切断、成形、接合、せん孔、塑性加工	17	木質材料 木材の表面処理 インテリアエレメントの構造 加工のための測定
	10月	・インテリアエレメントの構造	・板の種類と用途		
			合板、ファイバーボード、パーティクルボード		
	11月	・インテリアエレメントの構造	手工具と切削の原理		インテリアエレメントの構造 作業の安全
		・前期の復習	・木材加工の基礎（塑性、組み立て）		
	12月		・接着（接着の基礎、接着剤）		
	1月	①インテリアエレメントの構造	・塗装の目的		
	2月	①インテリアエレメントの構造	木製品塗装、塗料の種類、塗装用具		
	3月	※定期考查実施	・測定器具と使用方法		
			※学習内容の定着度を確認		

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・木材加工や家具の仕組みや役割について理解することができ、ものづくりの計画を行うことができたか	定期考查
思考・判断・表現	・木材の基本的な性質について理解し、表現することができたか	課題提出
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加し課題・授業に積極的に取り組むことができたか	出席日数・授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

単元毎に小テストを実施し学習定着を図る。